

第47巻 第2号 予告

特集「地域の精神保健福祉活動はどのように展開するか」

- 巻頭言.....竹島 正
1. 精神医療の今後の方向.....井上新平
2. 精神保健福祉士の役割——精神保健福祉士法の意味するもの.....大野和男
3. 保健所の活動をどのように進めているか.....東条敏子
4. 神戸の事件, 中学生のナイフの問題——児童思春期のメンタルヘルスに見る予測の問題
.....高塚雄介
5. 大都市における精神保健の問題.....野津 眞

編集後記

「公衆衛生研究」で特集を組むようになって8年目を迎え、特集の数も次号で30を数える。扱われたテーマは「阪神・淡路大震災と地域保健」「エイズ対策」「産業廃棄物問題とその処理」「腸管出血性大腸菌 O157集団感染とその対策」「受動喫煙」そして「地域の精神保健」など我々の日常・非日常で問題とすべき事項を網羅してきた。そこには国立公衆衛生院のすべての学部が関わってきた。

その「国立公衆衛生院 (National Institute of Public Health)」は「保健医療福祉政策研究所 (仮称)」として新しい看板が検討されている。また、「厚生省 (Ministry of Health and Welfare)」も「労働福祉省 (仮称)」として省庁再建の俎上にのぼっている。組織名はその機関の「目的」を鮮明に表現しているべきであろう。

「公衆衛生研究」で何を特集すべきか、編集委員会での毎回の議題である。特集を検討するとき「公衆衛生 (Public Health)」そのものがいつも主役となる。名称の検討は合理的であって欲しいと思う。

磯野 威 (附属図書館)